

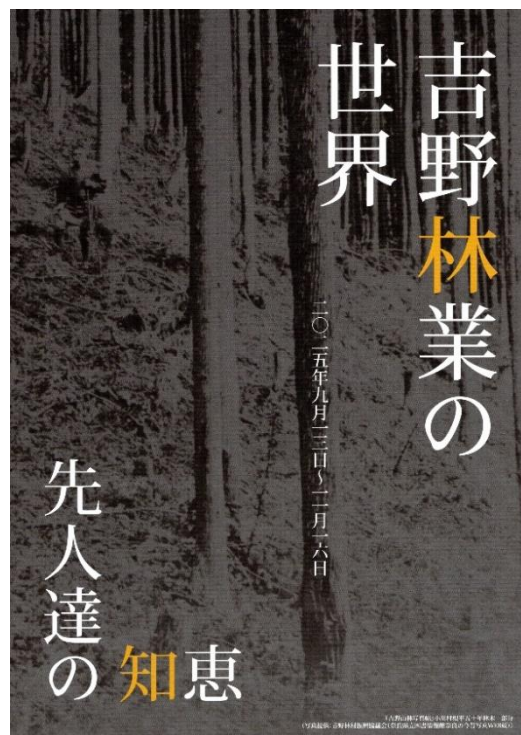
先人達の知恵「吉野林業の世界」

令和7年(2025)9月13日～11月16日

開催場所：奈良県立美術館

「吉野林業用具と林産加工用具」を通して「木」を利用した人間生活を伝える展示をします。

奈良県立民俗博物館に所蔵される「吉野林業用具と林産加工用具」は明治～昭和30年代ごろに、奈良県南部の吉野郡内で使用されていた育林を中心とした林業関係用具と、豊富な木材資源を利用した林産加工品の製作に用いられた用具類及び一部製品から成り、木を切り倒すことなどに用いる林業用具616点、切り出した木を加工した道具などの林産加工用具1,292点、あわせて1,908点からなり、2007年に重要有形民俗文化財の指定を受けました。民俗文化財には制度上、国宝指定がありませんが、国宝と同等の価値があります。奈良県には林業の道具が多くそろっており、吉野林業の全体像を捉えることができると評価されました。これらの道具は同じように見えても、一点一点、用途にあわせて違っていたり、手作りで繊細に作られていたり、工夫が凝らされています。我々人類が何を選択し、何を捨ててきたのか、その時代の中の生活の知恵をご覧ください。



上記リーフレット表紙に使われた写真
「吉野山林写真帖」より

伝承されてきた生活の知恵

林業における技術伝承には、それは木の切り方や運び方、どのような木が商品として適しているのか等、先人から受け継いできただけでなく、伝承の中には、山の神への祈りや、この地で暮らす人々の思想もあります。

伐採の主役ノコギリ：用途に応じ縦挽き、横挽き、大小各種あります。

風習を込めたオノ：危険回避のため山の神に奉納する意味を込めた刻印

「三本線：ミキ」「四本線：ヨキ」を施す。

天然香料吉野杉タルマル：酒造業者から酒樽で輸送中香りが付き江戸の人気を衛ました。

